

# 話題の新品種「シャインマスカット」の栽培技術

～幼木期の管理と種なし処理方法のポイント～

上林義幸（農業総合試験場園芸研究部落葉果樹グループ）

【平成24年3月15日掲載】

## 【要約】

「シャインマスカット」は食味が優れており、県内での導入が進んでいるが、幼木期は樹勢が強く、果粒肥大が悪いため、早期に樹冠を拡大しつつ、多くの新梢を確保して樹勢を落ち着かせることが重要である。また種なし処理にはジベレリン2回処理、1回処理の2つの方法があり、それぞれに適した処理および処理後の管理を行う必要がある。さらに、着果過多になると食味が低下するため、10aあたり収量は1500kgを上限に着果量を制限する。

### 1 はじめに

「シャインマスカット」は（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所育成の品種で、食味が優れていることから、愛知県内での導入が進んでいる。近年の消費者嗜好に合わせて、種なし栽培を推進しており、農業総合試験場で行ったこれまでの試験結果から、幼木期の管理と種なし処理の方法のポイントを紹介する。

### 2 植栽～幼木期の管理

「シャインマスカット」の種なし栽培では、本来12g程度の果粒になるが、樹勢が強い幼木期は新梢伸長が旺盛で、果粒が6～10g程度にしかならない。このため、植え付け後短期間で樹冠を拡大し、樹勢を落ち着かせることが重要と思われる。



写真左 2房

3年生樹の果房

写真右 2房

14年生樹の果房

#### (1) 整枝・せん定

主枝や垂主枝など、骨格となるような枝の先端は、生育旺盛で充実した1年枝を長さ2～3m、芽の数にして15～20芽程度残し、樹冠の拡大を図る。このように長く残した枝は、翌春に先端部の芽だけが発芽し、基部の芽が発芽しなかったり、発芽しても新梢の生育が劣る。このため、発芽促進剤処理と芽傷処理を併用し、発芽率と発芽後の生育揃いをよくし、翌春、生育の良い多くの新梢を確保するように努める。

## (2) 夏季の管理

主枝や垂主枝の先端で、冬のせん定時に樹冠拡大のために利用する予定の枝は、8月以降先端を摘心し、副梢が発生したら1～2枚の葉を残して摘心し、養分の浪費を防いで枝の充実を促す。

### (3) 果粒肥大促進のための植物成長調整剤利用

幼木で、果粒肥大が不良な時期には、種なし化のための植物成長調整剤（以下植調剤）処理時に、果粒肥大促進の目的でホルククロルフエニユロン液剤（以下商品名のフルメット液剤と記す）を利用するとよい。成木になって、果粒肥大が良好になってからは、利用にあたっては注意を要する（後述）。

## 3 種なし処理方法

### (1) 花穂の整形

縦長で円筒形の房に仕上げるため、花穂の先端部分3～3.5cmを残して、花穂を整形する。先端が二股に分岐した花穂、主軸が帯状の扁平になっている花穂、先端部の主軸が急に細くなって、花蕾が小さい花穂の場合は、整形時に先端部を切除する。

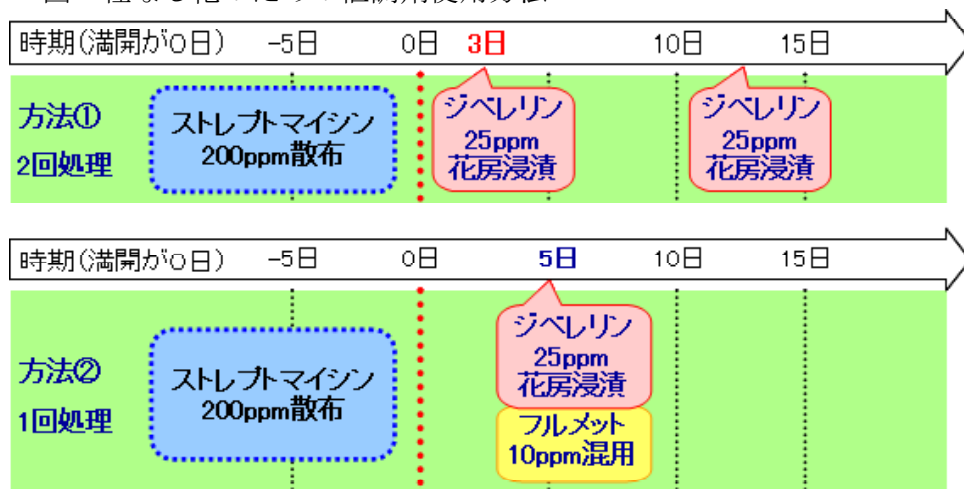
### (2) 種なし化のための植調剤の使用方法

巨峰と比べて種が入りやすいため、開花前10日～開花直前に、あらかじめストレプトマイシン剤を散布しておく。その後は図のとおり2つの方法のどちらかで種なし処理する。

ジベレリン2回処理の場合、1回目の処理は満開3日後に行う。花穂の先端まで完全に開花し、上から半分程度が既に果粒になっている頃が適期である。2回目ジベレリン処理時にフルメット液剤を加用すると、より大粒になるが、着果過多になりやすく、食味を悪くするおそれがあるので、注意が必要である。

ジベレリン1回処理の場合は、満開5日後に処理を行う。花穂の先端まで果粒が確認できる頃が適期である。処理回数が1回で済むが、2回処理より果粒肥大がやや悪い。また軸があまり伸びず、多くの粒が残りに、粒が密着しやすい。このため処理後1週間を目処に、早期に摘粒を始める。

図 種なし化のための植調剤使用方法



### (3) 着果量の調整

1房500gを目標とし、8～9cmの軸に10～12段の支梗を残し、35～40粒を着けるように摘粒作業を行う。こうした房を10aあたり3000房程度残し、10aあたり収量は1500kg以下になるよう、着房数を制限する。着果過多の場合、収穫時期が遅れたり、糖度の低い果実になるおそれがある。

### 4 まとめ

以上のことから「シャインマスカット」の幼木期の管理方法は、早期に樹冠を拡大しつつ、多くの新梢を確保して樹勢を落ち着かせることが重要なポイントである。また種なし処理にはジベレリン2回処理、1回処理の2つの方法があり、それぞれに適した処理および処理後の管理を行う必要がある。さらに、着果過多になると食味が低下するため、10aあたり収量は1500kgを上限に着果量を制限する。